令和４年度第２回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会
議事録

■日時　：令和４年５月１２日（木）
■時間　：１３：１５～１５：１５
■場所　：小山市立文化センター　小ホール
■出席者：１７名（別紙委員名簿のうち１７名）
■欠席者：１名（八木委員）
■事務局：小山市教育委員会　生涯学習課
（濱口教育長、上野教育部長、宮田生涯学習課長、川俣同課課長補佐兼生涯学習係長、同係酒巻主査、田中（絵）主査、堀主査、児矢野主査、大巴主事）

１　開会
２　教育長挨拶
３　懇話会
（１）報告事項「前回の懇話会について」
（２）議事及び事務局説明事項
1　【論点整理２】（宇都宮共和大学　陣内雄次教授）
「まちづくりに関することの振り返りと小山市立生涯学習センターへの期待」
〇小山市の「持続可能性」が重要である。まちづくりという観点から、「市民参画（主体）」、「協働のまちづくり」が大切であり、小山市立生涯学習センターの役割が期待される。
〇まちづくりとは「利害関係者が合意を図りつつボトムアップで決定し、地域の多様な問題を包括的にとらえて解決する仕組みや活動」である。（『生活の視点でとく都市計画』）
〇「学び」が重要であり、「学び⇒気づき⇒行動（に移す）」
行動したことによって成果を上げて自己実現や自己有用感などを得ていく。そこからまちづくりに関わっていこうという意識が高まる。
〇「まちのオウナーシップ」は、まちは自分たちが関わるべきものであるという意識。
まちづくりというと公共が行うものという意識があるが、「他人事から自分事へ」転換していくことが重要。（学びや気づきが生まれる）
〇まちづくりへの入り口（HOOK）の１つとして小山市立生涯学習センターが位置付けられてもよいのではないか。まちづくりへの入り口（HOOK）が身近に多種多様にあることが望ましい。
〇1969 年 Arnstein 氏の「住民参加のはしご」より、持続可能な小山市のために目指したいまちづくりの姿として、はしごの上の方を目指すべき。ただしいきなりここまでは難しいので、入り口（HOOK）がいろいろとあって、そこから入ってきた人たちがいろいろなことを行いながら少しずつ「住民参加のはしご」を登っていくことが大切。
〇地域住民からすると、地方自治体がつくる計画を自分事化するというのは難しい。自分事化するために、いろんな人と関わり合う（Mingle：混ざり合う）中で意識が変わっていったり行動が変わっていく。生涯学習は、いろんな人が混ざり合う場をつくる場でもある。
〇いろいろな入り口（HOOK）が生涯学習センターにあり、そこからまちづくりを行いたいという人が出てきたら、小山市民活動センターへ行き、「住民参加のはしご」を登るというようなスキームができればいい。

2　小山市立生涯学習センターの基本理念について

事務局より、別紙１をもとに説明。

【質疑応答】

A委員

P15 の図について、小山城南市民交流センターは、公民館はありませんが、コミュニティセンターを併設しております。陣内先生の説明の図の中で、自治会など生活コミュニティが衰退してくるという話がありましたが、私どもは１５の自治会で組織しているコミュニティ協議会をつくり、生活コミュニティの衰退を止める努力をしております。**（小山城南市民交流センターは）公民館としては機能しておりませんが、コミュニティセンターを併設しておりますので、コミュニティセンターで学びの場を提供していると考えております。生涯学習とは少し筋が違うのですが、コミュニティセンターを追加していただければと思います。**

⇒事務局

ご指摘のとおり追加させていただきます。

B委員

陣内先生のお話でも、今回の資料説明の中にも市民活動センターという名前が出てきたので、市民活動センターがどんなものかということについて少しだけご紹介させていただきます。

陣内先生の資料の一番最後にあった**生涯学習センターと市民交流センターの相互の連携**について。私どもが常日頃から考えていることは、**ただ単に市民活動をすればいいということではなくて、そこに学びがあることで、良質なサービス（課題解決）を提供できる、質の高い市民活動ができる、自治の課題に立ち向かえる市民が育つなど、市民活動センターだけの働きで良いとは思っていないです。とにかく学びが必要だということは私たちも認識しております。ただ、どう連携するかは正直難しいと思っています。**P13 のピラミッドを参考に大体のこととして聞いていただきたいのですけれども、このピラミッドで、自己啓発の部分と社会参加のきっかけの部分について、生涯学習センターとしては重点的にという話でした。ピラミッドがどんどん上にいくと、まちづくりに貢献するとか市民とつながりができる、というのはその通りだと思うのですが、**私たち（市民活動センター）の取り組みは、一番上の三角のところで、市民活動をしている人たちが、どのように組織を運営しているか、マネジメントの部分とか、資金をどうまわしていくかとか、実際は費用対効果などあるのですが、本当に市民の心の中に豊かな生活を提供しているか、そういうところの確認、支援、アドバイスを行っているので、横に飛び出た部分かなと思っております。**ですが、それを行うにあたっては、この図の一番下のところが大事で、そのことも理解しているので、**私たちは三角の一番上を横にはみ出しているけれども、この三角の活動が私たちの活動にとって栄養になっている**と思います。なかなか分かりにくいかもしれませんが、よろしくお願いします。

C委員

Ｂ委員の話に付随しているのですが、私は市民活動センターに所属している団体の一員で、児童養護施設のボランティアや、東日本大震災で被災された方に対して、自主的にある程度活動できる人たちが集まってボランティア支援するという活動に今現在も務めております。その中で、小山市の中で何か似たような案件があったときに、そういった人たちが同じ繋がりをもってできるようにならないかということを主にしてそこに加わってます。

「小山防災」（災害支援ネットワークおやま防災）というバッチをつけてまして、小山市内でボランティアなどを行った経験のある人とたちをネットワーク化して、小山市周辺で災害などがあったときに、自主的に、お金もなるべく外から支援を受けずにできるような体制をつくりましょうという団体を立ち上げて、２年くらい経ったところなのです。そういうところからすると、そこにいくまでの距離はものすごく長いわけです。そういうことよりももっと簡単に、**自分が今何か足りないけど何かやりたいと思っている人が学びに行く場所が生涯学習センター。そこを卒業して、自主的にある程度プランニングとか行動できる人が集まって、より一層増幅して社会のために実践できる人たちが集まる場所が市民活動センターという感覚なので、先ほどの図の矢印でいうと、関りはあるけれど、実際に行われる活動としては異質というか、種が違うというか。**P15の図でいうと、市民活動センターが生涯学習課ではなく市民生活安心課にあるというのは、自治会などと同じであくまでも自主的に活動する団体が自主的に行ってくださいねという環境を提供する場であると思っているので、**生涯学習センター関連施設との関係については、市はこの図で進めたいというのもよくわかるのですが、できれば実情に合わせて、もう少しこの図を今運営している形とリンクをさせて実情に沿った形に近づけ、かつ理想的な方向にもっていくような議論が必要だと思う**ので、その辺を皆さんと勉強しながら進めたいと思いますので、ぜひご検討をお願いします。

D委員

皆さんいろいろと意見を出してくれていますが、分かりにくくしているのではないですか。まず第一は、**多くの市民がいろいろな意見を出し合って、こういうことをやろうというのがいっぱいできてくればいいのではないですか。生涯学習センターがそれをまとめればいい。その中で持ち上がったものが小山市の核になっていけばいいのではないですか。**初めから三角の一番上などできるわけない。正直言って我々は日々実践的に動いている。**実践的に動く人が小山市の中でどれだけの割合で増えていくかということが大事。**そういったものがたくさんまとまったら生涯学習課とか生涯学習センターが中心になってまとめて小山市をつくってもらう。

E委員

図で示されこともあり今までよりは分かりやすくなるのかなと思います。

今まで生涯学習に関してどこに問題があったのかというと、**1つ1つの案件についてこの案件はどこに聞けばいい、この案件についてはどこに話を持っていけばいいというのが、文書には書いてあるのかもしれないが、明確でなかったところが問題**だと思います。この図がもう少し具体的で分かりやすくなれば、現場で働いている人が、これについてはここに行こうとなると思うのです。私の感じるところは、生涯学習センターというのが、これからの小山市の生涯学習において、**ランドマーク的な位置づけになればそこを中心に生涯学習に関わる地域の教育に関わる団体などが意見を1つにまとめるというのが可能になる**のかなと私は想像しています。

⇒事務局

たくさんの意見をいただきまして、私どももいろいろと考えて P15 の図などを作ってきたつもりなのですが、いろいろな見方によって感じ方というか、実践されている方のご意見を聞くというのは大切なのだと感じたところです。またご意見をいただきまして、私たちが生涯学習センターをどのようにしていくかを考えるための資料にしていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

F委員

P15 の「未来」の図の中央公民館の在り方について。今までは「かつて」の図の中央公民館が指導的な役割で各公民館の講座など持ってきましたが、これでいくと**公民館は各地区にありますが小山地区はどうなのかなと。中央公民館は小山地区の公民館も一緒に担っているということでよろしいでしょうか。**

⇒事務局

中央公民館については、「未来」に生涯学習センターが生涯学習の拠点ということになりまして、小山市全体のことをみていくというようになりますと、**現在の中央公民館は、小山地区の公民館になる**と考えております。その場合、今は中央公民館となっていますが、紛らわしいと思いますので、将来的には例えば「小山公民館」ですとか、そういった形での名称変更も必要なのかなと考えております。

D委員

防災については実例があります。５～６年前に小山市は水害に遭って羽川の浄水場が止まったのです。そのとき小山市の北部の方は水が出なかった。その際、公民館単位、社会福祉協議会でみんなに声をかけてみんなに集まってもらって、災害弱者に水を配ったのです。もちろん市役所に電話をして給水車を持ってきてもらうように話をしました。そのときに、公民館単位だったので自治会も絡んでいたので市民生活課に電話したら、100 人も 200 人も国道沿いに並んでいるのに誰も来ない。だから私が電話で文句を言ったら２人くらい来た。交通整理のために。そういう風に、**地元はやる気があるのです。そこを広げていけばいいのだと思う**のです。生涯学習センターでもそういう意識をもっているところをどんどん投入してやっていく、これが一番なのではないですかね。それが近道です。

⇒事務局

貴重な体験談をありがとうございます。特に防災ということになりますと、**地元の1人1人の働きというのも大切になると思いますが、そこに行政がどのように寄り添うか、どんな風に支援していくかというのを勉強していかなければならないと感じております。**そういうところを含めて実践というのも大切だと思いますし、**委員のおっしゃった地元に既にある協力体制であるとか、皆さんの力をどれだけ拾い集めて広げていけるかが大切**だと認識いたしました。今後そういった活動ができればと考えております。

E委員

確認をさせていただきたいのですが、**第4章の具体的施策・事業というところで、4つの項目の**

まとめ方がすべて疑問形で終わっている。疑問形で終わっている理由というのは今後目標として掲げていこうという意味で載せたのか、市民に対する問いかけで載せたのか。**すべて疑問形で載せた意図について説明していただければと思います。**

⇒事務局

疑問形で終わっている理由は、**私たち職員や生涯学習センターを運営する者が、講座などを企画するときに、こういった視点をきちんと持てているのかについて自ら問い、チェックをするという意味で、この視点を忘れずに主催事業を企画していきたいということを表したもの**です。

E委員

これから企画運営する立場の人たちが１つずつ確認をしながらという理解でよいですか。

⇒事務局

おっしゃるとおりです。

C委員

４章の**事例で防災に関するお話がありましたが、これは小山市でもう既にやっている事業ですよね。社会福祉協議会が中心になって一般市民のボランティアの人が集まって既にやっている事業なので、同じ事業を2つやるのは効率的ではないのかなと思います。**これは参考例だから今後やるかは別にしても、同じことを２つも３つも違う部署で行っても意味がないので、お金と人材の無駄ですから、そういったことは注意していただきたい。

あとは先ほどD委員からもお話がありましたが、**生涯学習センターの立場というのは、各地にある自治会や自治会の代表者、一部の人が携わって市民交流センターなどが行う事業の中で、市全体でまとめなくてはならないような催し物を差配する施設であるべきだと思うので、そういう意味からするとちょっと話が大枠過ぎる。もう少し市民活動とかそういった中で生涯学習センターでやらなければならない部分をある程度絞った方がよいのではないかなと思います。**多分このまま進めると市の職員とそこに携わる相当な人数と相当な規模の建物の面積などがないと実現できないのではないかと思うくらいボリューミーなので、そこら辺をもう少し皆さんと話し合っていきたい。陣内先生の話の中で人口減少とありましたが、人口減少＝税収も減る、そうすると職員の数も必然的に減っていく。そうなったときに、**本当にこの内容は実現できるのかというところを少し考えないといけない。**やりたいのは私たちも山々ですが、実現できないことだけを想像してつくってしまうのは、市民にも税金の負担をかける形になってしまうので、こちらの希望と実情とを合わせながら、どういう形がふさわしいのかというのを審議していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

⇒事務局

貴重なご意見ありがとうございます。たくさんの公民館が地区ごとにございまして、それぞれ同じようなことをやっていることもあれば、その地区ごとの伝統的なことや、繋いでいかなければならないことを行っているというのはあると思います。そのあたりは**各地区や私どものほうで重ならないようにし、逆に重ねて全部周知した方がいいようなことは、それはそれで進めていかなければならないといったことも選別しながら行っていきたいと**考えています。

また、第４章の４－２の重点事業については、私たちがこんなことをやりたいというようなことをたくさん盛り込んだような資料となっております。この後、運営方針が決まりましたら、今度は具体的な実施計画に入ってまいりますので、その際にはまた皆さんのご意見を十分に取り入れながらいろいろな重要度や重複性とか、そういったことも考えながら企画していきたい

と考えております。

D委員

防災のことですが、さきほど消防も含めやっているとのことでしたが、やっていないですよね。はっきり言って何もやっていない。なぜかというと、防災計画に、どういう風な回答をするか、私は聞いただけなんですが、もう分かっていない。私は消防本部にも言いました。大災害があったときに、どういう風に動くのか、一番最初に何をやるかというのを。災害援助申し込んでも意味ないでしょう。みんな逃げ回っているのだから。じゃあそのときどうするのか。今まであったものをチェックして、出せる水がどのくらいあるのかとか、そういうことから入っていかないとどうしようもないと私は思います。今日の食料とかも要るのだし、そういうことを全然打ち合わせしていないのだよね。その辺をもう一度たたき直さないと無理。その後水が出たときには、防災会の会長さんを集めて反省会をやったのですが、そのときになんて言ったと思いますか。小山市が逃げてくださいと言わなければ自治会長は言えませんという。そういう防災リーダーなら居ない方がいいよね。**そういう教育ができていないからだめなのだ。その教育をするのは消防とか、生涯学習センターなどであり、ちゃんとリーダーシップをとってやらせなくてはだめ。**やったふりをしているだけ。現実動けないのだから。そういう状況です。

⇒事務局

防災については専門家でない者がいうのもなんですけれども、例えば生涯学習を通じてできることというのは、**まず地域において自分はどんな立場で、自分がいる場所はどんなところで、どう逃げなければいけないのかということや、自分が生きていくために何をしなければならいないのかということを認識する**ところから始まって、あとは**ご近所でどんな人がいるのだろうかとか、どういうときにどういう行動しなければならないのか**というところは世代によっても違うし、場所によっても違うし、とても複雑で難しい問題なのだと思うのですね。決まったことでなくて臨機応変に対応しなければならないのだと思いますので、**生涯学習というのはそういうことに気づくというところから、気づきの部分を市民全体にまずは広げられればいいなと考えております。**

D委員

気が付かない人がいて、気が付く団体がいて、そこで補完できればいいわけです。

G委員

感想なのですが、**公民館の立場からすると、講座パッケージをつくって公民館を支援するというのは、これは大きな力になると思う**のです。各地区公民館には社会教育指導員が配置されていますが、重なってもいい部分、重ならない方がいい部分、いろいろなアイデアがいただけるというのは、この重点目標の中で素晴らしいところだと思いました。

会長

今日の感想としては、**市民の生の声を聴く場が足りなかったのかなと私も正直思いますので、そこをもっと大切にしながら生涯学習センターのありかたというものを問い直していくような懇話会になることを期待**しています。

3　市民の声を聴く機会について

事務局より別紙２をもとに説明。

F委員

市民の声を聴くということでしたけれども、日にちがないですよね。議会の議員に昨日あたりに流れてきてますし、**市民の方にどのように周知するのでしょうか。**17 日締切ということは、一般の市民の方は知らない方が多いと思うのです。市の広報には載りましたか。

⇒事務局

この短期期間での開催になってしまい大変申し訳ございません。こちらはこれからいろいろなところに周知していくように考えております。まずフォーラムにつきましては、21 日ということで、これから**ホームページや LINE・関係団体などに送付していきたいと考えております。**アンケートにつきましては、１ヶ月ほどありますので、こちらはじっくりと回答していただけるかと思っております。

D委員

遅すぎる。

F委員

やることはいいのだけど。

⇒事務局

今、アンケートはどこにあるかという質問をいただいたのですが、生涯学習センターや各公民館などにこれから置く予定になっております。

H委員

これは連携に関する運営懇話会の話であって、あり方そのものを検討する場所なのかどうかというところ。今のようなフォーラムもそうですけれど、**あり方は生涯学習の中心機関であるということで決めきってしまっているのであれば、意見を聞いてもしょうがないと思う**のです。市民を呼んで聞いて、好きなだけ話し合っても変わらないのであれば、それはなんのために呼んでいるのかという話になる。あり方そのものを検討するのであれば、まだ余地はあるのだと思うのですが、あり方は決まっている、そこから細かい運営を決めてくれというのだったら、それはどうぞ。ただその場合もっと集客したいとかはっきりした目的があればよいのですが、これだけの方を集めていったいどういう方向にもっていきたいのかが理解できなかったです。

また、**本当にあり方を検討したいのでれば世代を超えていかないと若い世代も入れない**し、そもそもロブレの問題は大きい問題なのです。その辺の根本的な部分が見えないという点では、**あり方を含めての検討なのか、運営についての検討なのか、3回目以降にはっきりとしていただきたいと思います。**

⇒事務局

運営懇話会でございますが、皆さんに意見をいただいておりますけれども、１回目は導入のお話になりまして、今回は理念の話、次回はコスト面ですとか具体的な運営の話をさせていただきたいと考えております。その後、全６回になるのですが、６回目までに現在指定管理で生

涯学習センターを運営しておりますが、指定管理機関が終了するため、**今後指定管理を続けていくほうがよいのか、または基本理念などを見ていただいて、市の直営に戻すことも検討ありなのかということを皆さんに今後議論をしていただいて提言書をおつくりいただく**という流れになっております。

Ｉ委員

まちづくりに関して、生涯学習センターというものがどういう風に関連するかというのが私には見えてこない。この懇話会の在り方をどういう方向に考えてまちづくりを考えたらよいかというところが見えてこない部分があるので、**どういうことを学んでいくのか、まちづくりに対してこの懇話会がどういう風に必要なのか、存在していけばいいのか**ということをもう少し私自身も考えていきたいと考えております。

Ｄ委員

まちづくりは人づくりということだけど、人づくりが先ではないですか。まちづくりというと、道を広げたりといったようなイメージがある。**小山市の市政に関心を持ってもらい、自主的に動ける人づくりをするというのがまちづくりなのでは。**言わんとしていることはそういうことでは。私はそう思っています。防災のこととか、高齢者のこととか、子ども会の問題だとか、たくさん包含しているのだと思います。

⇒（世代を超えた問題があるということですか。）

Ｄ委員

超えているのですよね。

教育長

この会議を始めるときから、どこがまちづくりに関わっているのかということを私自身もいろいろ考えてきました。小山市の長い発展の歴史というものを考えたときに、ハードの面というのですか、いろいろな工場を誘致するとか、多くの人に住んでもらおうとか、そういう面では政策的に素晴らしい進歩がありました。一方で、生涯学習のような特に文化の面や人の心に関する面について、本当に十分に今まで発展してきたのだろうかということを考えたときに、**ハードな面と比べると、ソフトな面というのは立ち遅れてきたのではないかという懸念を感じています。**

本当のまちづくりというのは、ビルを建てて人を集めて工場を誘致してということではなくて、1人1人住んでおられる市民の方たちが「住んでよかったな、素晴らしい街だな」と思うことこそ本当のまちづくりなのではないかと思っております。生涯学習をとおして素晴らしい街をつくっていくという点で、まちづくりにフィットし、目的を達成するのではないかというように教育委員会の中では話し合っておりまして、ハードとソフトという言い方で当てはまるか分からないのですが、そんな風に私たちは考えてまいりました。

会長

5 月 21 日の「これからの生涯学習センターを考えてみよう」については非常に日程的に厳しく、なかなか周知は難しいのではないかという意見がありましたが、これはもう行うということですので、行うという方向であればとにかく頑張ってたくさん周知して 30 人超えるようにしていただければというのが懇話会委員の皆さんの総意だと思います。アンケートについてはま

だ日にちがあるようなので、しっかりとサンプルを集めて分析をしていただければと思います。というところで、皆さんよろしいでしょうか。

D委員

5月21日はここにいる人は行かなくていいのだよね。新しい人で意見を募った方がいいのではないですか。関連している人が行ったら意見がそっちにいってしまうのでは。
⇒（偏ってしまうよね）

会長

先ほどのご質問の中で、懇話会のメンバー自体若返った方がいいのではないかという意見がありましたが、**5月21日はぜひ子どもたちにも参加してもらいたいと思っております。高校生・中学生・小学生を含めて、子育て中のお父さん・お母さん、障害がある方であるとか。**

ダイバーシティ・次の世代ということを重視して、その方たちが参加してくれると嬉しいなというのがありますし、アンケートもそういった方々に届くように頑張っていただければと思います。

（3）質疑
（4）諸連絡・次回開催のご案内

次回ですが、5月21日（木）14:30～間々田市民交流センターしらさぎ館にて開催になります。

（5）閉会

別紙

小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会委員名簿

任期：令和４年４月１日～令和６年３月31日まで　※敬称略

No.	選出区分	氏名（ふりがな）	役職等
1	生涯学習関係団体・関係施設	鈴木 久美子（すずき くみこ）	社会教育委員 委員長
2		引橋 三佐夫（ひきはし みさお）	生涯学習推進協議会 会長
3		栗原 要子（くりはら としこ）	公民館運営審議会 会長
4		柿崎 全良（かきざき まさよし）	青少年健全育成連絡協議会 会長
5		岸 利子（きし としこ）	生涯学習センター利用者 オカリナアンサンブル小山
6		中野 晴永（なかの はるなが）	車屋美術館 館長
7		八木 利典（やぎ としのり）	小山市自治会連合会 理事
8		木村 和子（きむら かずこ）	小山市小山城南市民交流ｾﾝﾀｰ「ゆめまち」指定管理者 あさひｺﾐｭﾆﾃｨ推進協議会 事務局長
9		小針 協子（こばり きょうこ）	小山市市民活動ｾﾝﾀｰ「おやま～る」 副ｾﾝﾀｰ長
10		宮内 せつ子（みやうち せつこ）	小山商工会議所 女性経営者会 代表
11		福本 佳之（ふくもと よしゆき）	小山駅周辺地区まちづくりﾌﾟﾗﾝ検討委員会委員 小山商工会議所青年部　直前会長
12		鈴木 正俊（すずき まさとし）	栃木県教育委員会事務局　下都賀教育事務所 ふれあい学習課　副主幹
13	学識経験者	陣内 雄次（じんのうち ゆうじ）	宇都宮共和大学　ｼﾃｨﾗｲﾌ学部　教授 宇都宮大学名誉教授 栃木県教育委員会 委員
14		児玉 博昭（こだま ひろあき）	白鷗大学　法学部　教授 栃木県行政改革推進委員会 会長
15		石井 大一朗（いしい だいいちろう）	宇都宮大学　地域ﾃﾞｻﾞｲﾝ科学部 ｺﾐｭﾆﾃｨﾃﾞｻﾞｲﾝ学科　准教授
16	市議会議員	青木 美智子（あおき みちこ）	小山市議会議員
17		福田 幸平（ふくだ こうへい）	小山市議会議員
18		嶋田 積男（しまだ せきお）	小山市議会議員